

理事長室から

竹屋 元裕



「学園祭」の季節がやってきた

熊本地震をはじめ多くの災害が日本列島を襲った夏も終わりを告げ、秋本番の気候となりました。大雨や台風の襲来のない穏やかな秋日和が続くことを願っています。そして、いよいよ今週末開催の「杏祭（学園祭）」が目前に迫って来ました。「杏祭」は银杏学園短期大学の「杏」をその名に冠して、短大時代に始まりましたが、今年は節目の第50回目となります。テーマは“杏core ～「また来たい」を処方します～”。実行委員の皆さんが知恵を絞って考えたそうですが、「杏core」とはアンコール、また来なくなる様な学園祭にしたいという意気込みを感じます。私もアンコールに答えて、昨年に続き学長ステージを目論んでいます。今年は学内のお二人の先生を巻き込んで、沖縄三線とギターを交えて「西里トリオ」として登場します。乞うご期待！

今年は「杏祭」に併せて、同窓会連合の主催でAIに関する講演会と懇親会が開催されます。卒業生を交えてキャンパスが大いに賑わうことと思います。卒業生のみならず教職員も参加可能とのことですので、奮ってご参加下さい。本学は前身校の創設から68年目を迎え、卒業生も1万人を超えています。同窓

会連合は平成28年2月の記念式典で「银杏（いちよう）会」と命名されたと聞いていますが、今回の「杏祭」日程に併せた講演会・懇親会開催をチャンスと捉え、今後は卒業生と在校生が一堂に会する“ホームカミングデー”の様な企画も考えたいと思っています。

長い人生の中で学生時代にしか経験出来ないこと、その一つが学園祭です。学生諸君には、ステージ企画や文化展示、模擬店などを通して学園祭を十分に楽しみ、その想いを心に刻んで欲しいと思います。人生の1ページを彩る思い出の学園祭となることを祈っています。



杏core（アンコール）に応え、今年は「西里トリオ」としてステージ登場。乞うご期待！

米田さん（リハ領域）に学術集会長賞

コ・メディカル
形態機能学会

コ・メディカル形態機能学会の第24回学術集会在9月11（金）、12日（土）、大分市で開催され、ポスター発表を行った本学大学院リハビリテーション領域2年の米田直矢さんが学術集会長賞を受賞しました。

米田さんの発表テーマは「小胞体ストレス応答因子ATF6 β 欠損マウスにおける父性行動とオキシトシン神経系の解析」。タンパク質の品質管理に関与する遺伝子が養育行動や神経細胞に与える影響を解き明かそうというものです。

本学の学部時代から取り組むテーマとはいえ、今回は「発表することが目的だった」そうで、受賞の知らせには「驚きました」と米田さん。「思うような結果が出ず、何度もくじけそうになったこともありましたが、あきらめずにやっていてよかった」と顔をほころばせました。

現在は、修士論文に取り組む傍ら、11月の日本基礎理学療法学会でのポスター発表準備に忙しい日々を送っています。米田さんは「現場の理学療法士や高齢者の方たちを研究で支えたい」と話していました。（NL編集部）



コ・メディカル形態機能学会学術集会でポスター発表を行い、学術集会長賞を受賞した米田さん

「不易流行」テーマに議論深める

日本応用心理学会第92回大会は、9月12日（土）・13日（日）の2日間にわたり本学にて開催いたしました。本大会の熊本県および本学での開催は、今回が初となります。

本大会では「不易流行の応用心理学」をテーマに掲げ、変化の激しい現代社会における“変わらない本質”と“時代に応じた変化”を応用心理学の視点から見つめ直し、議論を深める場を目指しました。当日は北は北海道、南は九州まで、全国各地より約200名の参加者を迎えました。

学術プログラムでは、テーマを深掘りするシンポジウムをはじめ、会員による一般研究発表や自主企画ワークショップ、さらには学部生による教育発表も行われ、多角的な視点から活発な討議が交わされました。さらに大会最終日には、特別講演「くまモンはなぜ愛されるのかー不易流行から読み解く“癒し”の文化」を開催いたしました。講演終了後には「くまモン」および「くまモン出動隊」がサプライズで登場し、会場全体が温かな

笑顔に包まれるなか、和やかな雰囲気の中に全日程を終了いたしました。

末筆ではございますが、本大会の開催にあたりご参加・ご尽力いただきました皆様に、厚く御礼申し上げます。



くまモンを囲み、参加者の皆さんも笑顔あふれる集合写真となりました

『けいさんするとき ゆびをつかって いいんだよ』

ながともまき作、ささきあゆみ絵（熊日出版）



永友真紀講師



絵本『けいさんするとき ゆびをつかって いいんだよ』の表紙

「計算障害についてもっと理解して」—。そんな思いを込めた絵本を、リハビリテーション学科言語聴覚学専攻の永友真紀講師が自費出版しました。優しく語り掛けるようなタイトルが、逆に計算障害を抱えた人たちの苦しさを表しているかのようです。

計算障害とは学習障害のひとつです。簡単な足し算、引き算ができなかったり、数の概念が理解できなかったりする状態を言います。文部科学省の調査では、小中学校の児童生徒の3.4%が計算障害を抱えていると推定されています。永友講師によると、同じ割合で見られる読み書きに関する障害ほどには認知されておらず、教育現場でも「手つかずの状態」。無理解からくる周囲の不適切な対応によって、当事者が深く傷つくということも少なくないといいます。

物語は計算障害を抱えた女の子の成長の軌跡を小学時代から大学時代まで追っています。主人公のモデルとなった女性との出会いが、永友講師に絵本づくりに踏み切らせたといいます。絵を担当したささきあゆみさんは、病院内の壁画などホスピタルアートを手掛けるイラストレーター。温かいタッチの絵に魅かれた永友講師が、絵本づくりのパートナーにと頼み込み、約1年かけて絵本完成にこぎつけました。

完成した絵本は熊本県内の小学校に配布する予定です。永友講師は「まず、『なんでこんなこともできないんだ』といった頭ごなしの接し方をする前に、『計算障害』の存在を知ってほしい」と話しています。

※B5変形、24頁。1400円（税込み）。

本学の学園祭「杏祭」が10月16（金）、17日（土）の2日間、開催されます。50回目の節目の年にあたり、杏祭実行委員長の尾方晴道さん（理学療法学専攻2年）に意気込みを語ってもらいました。（NL編集部）

尾方 晴道 実行委員長に聞く

—実行委員長は自ら希望しての就任？

尾方：昨年の杏祭の際、当時の実行委員長など実行委員の先輩方から打診されたのがきっかけ。もともと人の先頭に立って引っ張るのが好きなタイプでしたので、二つ返事で引き受けたといった感じです。

—今回の目玉は？

尾方：本祭（17日）の最後を飾るスカイランタンです。50回目を祝おうと準備してきました。当日は、願い事が書かれた100基のランタンが夜空を彩ります。7月の熊本地震もあり、熊本全体を元気づけ、地域の人たちにも思い出づくりをしてほしいと考えています。願い事の受け付けは当日に行います。

—ことしのスローガンは？

尾方：“杏core（アンコール）～「また来たい」を処方します”。おなじみのステージイベントや模擬店も昨年よりスケールアップし、どの会場に行っても楽しめるようにと、100人の実行委員と共に準備しています。また、地域交流を深めるため、西里小の児童もダンスを披露してくれます。地域の皆さんと作り上げるイベントにしたいですね。

夜空に彩り
地域の人の
思い出づくり



写真上は、「昨年よりスケールアップした」と語る杏祭実行委員会の尾方委員長。同下は、杏祭のポスター

助産別科グループに特別賞 日本助産学会学術集会



特別賞を受賞した助産別科グループ。左から徳満さん、荒木さん、佐野さん、焼尾さん。

助産別科の学生グループ（徳満優莉奈さん、荒木佑奈さん、佐野ひなこさん、焼尾真奈美さん）が9月5（土）～6日（日）、京都府の同志社女子大学京田辺キャンパスで開催された第40回日本助産学会学術集会で研究発表を行い、特別賞を受賞しました。

発表題目は「西日本の産育習俗」です。本研究では、西日本各地に伝わる妊娠・出産・育児に関する伝統的な風

習や文化について文献調査を行い、その特徴や現代の母子保健との関連について考察しました。地域ごとに受け継がれてきた産育習俗を整理し、出産や子育てを支える知恵や文化的背景を明らかにした点が評価されました。

学生による研究発表には全国9校が参加しており、その中から本学助産別科の学生グループが特別賞に選ばれました。（NL編集部）

9月卒業式 努力と研鑽たたえる

9月卒業式が9月25日（金）、1204-1206会議室で行われました。対象となったのは、リハビリテーション学科言語聴覚学専攻の学生1人で、竹屋元裕理事長・学長から学位記が授与されました。竹屋学長は「卒業は努力と研鑽の賜物です。半年後の国試では、ぜひ合格を勝ち取ってほしい」などと祝辞を述べました。

式終了後、参加した卒業学生と保護者、教職員は笑顔で記念写真に納まりました。（NL編集部）



卒業式後、記念撮影する式典参加者

行事予定（10月13日～10月26日）	
10/16（金）～17（土）	杏祭
10/21（水）	動物慰霊祭
10/22（木）	臨地実習認定式(医検)

※「NEWSLETTER338号」は10月26日（月）に配信します。